
本県の情報通信技術支援員派遣事業における現状と課題

現状

GIGA スクール構想に基づく ICT 環境の整備が進む中、機器管理やトラブル対応なども教員が対応。

- ICT 支援員制度の利用が一部の学校に留まり、本来の役割を十分に果たせていない。
-

理想と現実の乖離

理想

余白時間の創出、働き方改革の推進
ICT 支援員の専門性を活かし教育 DX を底上げ
県全体の資産として知見を共有・展開

現実

活用ノウハウ欠如で利用が一部に限定
雑用的役割に終始、支援効果の属人化
支援員育成の手間感とノウハウ共有不足

課題

1. 役割の不明確さと活用ノウハウの欠如

- 支援員の業務範囲不明確で、学校現場が運用に困惑。

2. 支援効果の属人化・孤立化

- 成功事例が学校内に留まり、県全体に展開されない。

3. リソースの非効率な運用

- 支援員が御用聞き的役割に終始し、人的リソースが浪費。
-

期待される効果

1. 教員の業務負担軽減

- ICT 関連の付帯業務を支援員が担い、教材研究や生徒指導に注力可能。

2. 教育の質向上

- 余白時間を活用し、個別対応や深い学びを推進。

3. 県全体の教育 DX 加速

- ノウハウ共有で学校間の格差を是正し、ICT 教育水準を均質化。